

異分野協調モジュール設計

～在庫を持たない柔軟、ロバストな新産業創出を目指して～

■主催：情報・産業社会システム部会
情報システム・ディスラプティブ技術調査委員会

■担当部署：インダストリ・システム部

■参加者数：約70名

概要

情報・産業社会システム部会傘下の情報システム・ディスラプティブ技術調査委員会では、米スタンフォード大学 福田収一教授をお招きし、今般標記の講演会を開催致しました。

主な内容は下記の通りです。

- ・ウェーバー・フェヒナー（Weber-Fechner）の法則によれば、品質が良い時代においては、品質向上の認識は困難であり、本来の品質の意味である「進化イノベーション」を考えなければならない。
- ・ハードウェアは完成品の提供であり、生産者と消費者のコミュニケーションは一方向になる。その一方でソフトウェアは、双方向コミュニケーションであり、生産者と顧客の価値協創が必要になる。
- ・現在は共通部品の時代であるが、今後は知識の共通化の時代になる。
- ・企業は完成財産業から中間財産業への転換が必要であり、系列から脱却し、分野を超えたビジネス拡大を図っていく必要がある。
- ・その中でも、製品のメンテナンス等を行うMRO（Maintenance, Repair and Overhaul/Operations）市場はきわめて有望な市場であり、多能工、少資源の日本に最適な新産業であると言える。

世界屈指の名門校として知られているスタンフォード大学の最新の経営の考え方を知りたいへん有意義なセミナーとなりました。



プログラム

- 異分野協調モジュール設計 ～在庫を持たない柔軟、ロバストな新産業創出を目指して～
スタンフォード大学 教授 福田収一氏